

深谷市指定文化財 備前渠改閘碑記の碑

備前渠の歴史を伝える碑です。備前渠は、慶長9年（1604）、伊奈備前守忠次によって烏川を取水口に開削され、現在の本庄市から深谷市を経て熊谷市に至る流域村々140ヶ村の水田を潤す一大農業用水路であり、現在もその使命を果たしています。令和2年には世界かんがい施設遺産に指定されました。

天明3年（1783）、浅間山の大爆発により烏川が埋没、利根川南流と合流し、たびたび洪水の被害を出すことになりましたが、その後も幾多困難の歴史を重ね、明治34年（1901）、渠底浚渫工事が完成し、後顧の憂い無き状態になりました。この碑は、明治36年（1903）、徳川慶喜の篆額、渋沢栄一の

撰文並びに書により、深谷市矢島地内備前渠のたもとに建てられたもので、碑陰には協力者として法人2社、個人285名の氏名が刻まれています。この碑は、自然災害と戦いながら生きてきた地域の人々のくらしを伝える歴史的資料として貴重なものです。（深谷市教育委員会）



深谷市指定文化財 備前渠改閘碑記の碑

指 定 日 平成26年3月13日

指定番号 指定第歴12号

種 類 有形文化財

所 在 地 深谷市矢島字シドメ木1292番地4

所 有 者 備前渠用水路土地改良区